

資源循環型社会と情報基盤整備への実験：市民に直接訴え、失敗を排除するためのチャレンジ

北見市商店街振興組合連合会

機関名	北見市商店街振興組合連合会		
所在地	北見市北2条西2丁目みんとひろば		
電話番号	0157-22-2703		
地域概要	(1)管内人口	(2)管内商店街数 4 商店街	
	北見市 11万1千人 オホーツク 33万5千人		
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 4 商店街	(2)会員数 283 商店	
	(3)空店舗率 11.3%	(4)大型店空き店舗 1 店	
商店街の類型	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

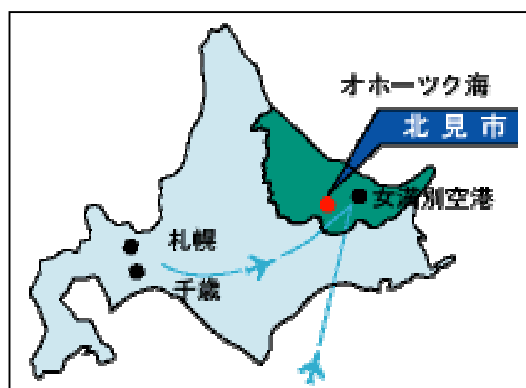
平成13年度 活性化対策事業 多機能カード、宅配事業、フリーマーケット
総事業費 9,346千円

【事業実施内容】

1. 背景

北見市では、北見商工会議所が平成12年度の商店街活性化先進事業として、チャレンジミニショップ事業、ハ・トフルまちづくり事業（おかみさんCafé他）、やホームページ「K-mint」の開設、多目的性を有した「みんとひろば」の開設などを実施した（平成12年度北見商工会議所該当部分を参照）。

平成13年度には、北見市商店街振興組合連合会が実施主体として、大型店進出に伴う中心商店街の空き店舗対策などのために、次の背景のもとに「情報センター実験事業」及び「エコシティ実験事業」を行った。



北見市の位置

(1) 情報センタ - 実験事業

北見市商店街振興組合連合会では、商店街活性化のための北海道内の中でも、いち早くカード事業への取り組みなどに取り組んできた。同会の参加商店のクレジットカードは地元の日専連北見のキャット端末を導入し、信販系銀行系の各種カードに対応している。4万9千世帯の内、6万人がカードの所有者である。

「K-mint」の有効活用とレベルアップを図るために、今後は、商店街組合や商店・各

企業のネットワーク化、オンラインショッピングの事業化、更に中心商店街でのキャッシュレス化などに対応する効率的な多機能カードを検討する必要があった。

各商店では、銀行のデビットカード化への対応、ネットワーク決済の可能なクレジットカードへの対応、ポイントサービス読取端末、ホームページ及びメールを活用とした顧客対応、POS レジ、キヤット端末、自社管理用のパソコン、更に、電話、FAX まで含めると多くの機器や回線が必要になるものが想定される。これにより、レジ周りは煩雑になり、投資、ランニングコストも多大のものになってくる。中小小売店にとってこのような対応は、その経費もさることながら、精神的負担が大きくなっていく。しかし、本格的な多機能カードの開発には、多大な経費と時間を要する。そこで、本事業により、個店のハード端末はできるだけ1つにし、ソフトはわかりやすく、かつ、全ての機能が一つのカードに集約した多機能カードによりどこまでできるかを研究することを目的とした。



北見市商店街振興組合連合会のお買い物券
(1,000 円で 20 円のポイント)

(2) エコシティ実験事業の背景

平成 12 年 12 月に北見市は新廃棄物処理施設の運転を開始した。これに伴いゴミの分別収集も行われるようになった。快適で住みやすい街づくりの視点から、ゴミを「減らす」「再利用する」「再資源化する」ことが求められた。この三者をバランスよく実行するために商店街としてもゴミの減量化、過剰包装の抑制、資源ゴミの再利用に取り組むことになった。

2. 事業内容

(1) 情報センター実験事業の内容

クレジット、ポイント、デビットの各カードとそれに伴う電子決済と顧客管理、これらのカードに基づくデータベース化した顧客管理サービスと個店レベルの今後の店作りなどを研究テーマとした。当組合関係者、TMO、一般市民、北見市、北見商工会議所の他、日専連、カード開発企業のスタッフが委員として参加し、研修会方式にて学習することからスタートした。次いで、議論を深めた上で、IC カードの導入を実験的に行い顧客データを共有したサービスの充実や客層の把握・情報発信などに取り組むこととした。従来の磁気カードに IC チップを埋め込んだ IC カードで実験を行った。



マルチカード(仮称): IC チップには、個人の情報が入力されている。実際に、持ち歩いてみると、ポイント表示部分(下部)が黒ずんできるとも判明。

これには、当組合理事や市長らをはじめとして 50 人がカード使用者として参加し、カード使用上の問題点を明らかにするよう努めた。商店側は、260 店中の 28 店舗が実験に参加した。

更に、IC カードに記憶する個人情報をも共同配送事業に活用することにより、コスト削減を図り、将来オンラインショッピング向け商品の受注、宅配サービス、配送確認、決済をシステム化することを目指して研究を行った。

(2) エコシティ実験事業の内容

この事業を推進するためにメディアを通しての伝達やイベントの中で市民に直接訴える事を行った。具体的には、次のことを行った。

リサイクル・チャリティマーケットの開催（タヤけ市）

・チャリティマーケット：商店街組合によるフリーマーケットの開催

・チャリティーオークション：自宅や店舗にある不用品をイベント会場でオークション形式で販売（売上金は北見市社会福祉協議会に寄付）

・ゴミ減量のチラシの配布

エコフェスタの開催（“まず、はじめましょう、ゴミを減らすことから”を实践）

・資源回収ボックスの設置（レコボックス）：リングブル・書き損じ葉書・使用済み
テレホンカードの収集

・ゴミ減量実験教室の開催

・“エコクイズ”平成エコ教育委員会”の開催

不用品交換の場としてのホームページの開設（RECO TOWN KITAMI）

ゴミ減量推進店のステッカーの製作

【 効 果 】

(1) 情報センター実験事業

主にクレジットの利便性、使用上の問題点を探したが、自分たちの利用可能性や問題点が体感できた。また、本実験により、自分たちが、こういったものが欲しいというものに気づくことが出来た。このような情報基盤整備に関しては、時としてメーカー主導になってしまい、結局、使用者側不在のシステムに高額なものとなる。この点、本実験事業により商店街の情報基盤整備に関して、そのメリットやデメリットを体験する者が、当会に多く生まれ、また、参加意識が高揚してきたことは大きな成果である。本格的に実施すると、2 億円の事業なので投資規模から見ても実験が必要であり、一応の結果が出たことは高く評価できる。

また、共同配送事業については、IC カードによるメリットとして、配送伝票等の合理化によるコスト削減が図られ、配送料金の単価を下げることがあげられた。しかし、本事業はカード事業と一体ではなくとも事業が可能なことから、消費者や高齢者、交通弱者への



リサイクル・チャリティマーケットの開催
（タヤけ市）風景

サービスとして商店街共同配送事業に取り組み始めた。

（２）エコシティ実験事業

商店街の意識と市民との意識が一致した。意識面での抵抗がないために、事業推進にも抵抗はなかった。事業所系のゴミは、北見においてはすでに有料化されていたので抵抗が少なかった。このことで認知度は高い。

リングプル、使用済みテレホンカードなどの収集、不用品交換の場としてのホームページ開設などを行い、商店街の新たな事業としても道筋をつけることができた。

ごみ減量方法についても具体的な策が提案され、実施するための統一マーク「レコ・タウン・きたみ」を作成し意識高揚を図ると共に簡易包装を推進するゴミ減量推進店を設置した。



エコクイズ平成教育委員会会場

【課題・反省点】

情報センター実験事業の実験結果から今後の課題は以下のとおり。

地元クレジット会社との提携・共同事業でなければ当連合会単独ではクレジット、キャッシングなどの事業化は不可能である。

個人情報を含めて情報の管理およびセキュリティの完全管理が必要である。

クレジット事業化への顧客中心のメニューの確立と運営方法の具体化が必要である。

【教訓】

クレジットカードの実験は簡単にできない。当会が、本実験を成し遂げた背景には次のような動機と体制があった。

コストと運用上の問題が生じるので実験を通じて知りたかった。

利用者がシステムを変えているので、システムについて知る必要があった。

時間の経過とともに皆が実験の意味が解かるようになる、と判断した。

他の失敗事例を見ている。自分たちもほかの事業で失敗している。失敗を排除したかった。

資金不足なので、成功事例だけを信じるわけにはいかない。自分の身の丈でやっていくしかない。

全員一致であるから、全員がわからなければ事業が進まない。

商店街には四つの商店街との意識があったが、市民からはひとつの商店街ではないかとの意見があった。祭りを一緒に行ったことと、事務局をひとつにしたことによって、一本化が進んだ。

当会の４つの商店街振興組合、商工会議所、日専連の役員を兼任している者がリーダー

ーシップを発揮した。



北見市の中心商店街

【 関 連 U R L 】

RECO TOWN KITAMI	http://k-mint.okhotsk.or.jp/users/reco/
K-mint	http://k-mint.ne.jp
北見商工会議所	http://www.okhotsk.or.jp/syokokac/

エゴロギーからエコロジーへ。

豊かな生活を手に入れた代わりに失ったモノや事がたくさんあります。

限りある自然の恵みを自分たちの手で守らなければなりません。

まだ間に合います。だからみんなではじめましょう。

エコシティー北見実現に向けて。



環境社会の形成でその処理
優先順位が法定化されまし
た

RE-DUCE
【減少・減量】
RE-USE
【再利用】
RE-CYCLE
【再資源化】

RECO:

リデュース【ゴミ減量】・リユース【資源の再利用】・リサイクル【再資源化】の頭文字と環境を意味するエコロジーの頭文字から成り立っています>

今日の環境汚染はかなりのスピードで進んでいます。

私たちの豊かで、しかも快適な生活を求める事と、反比例するかのようにジワジワと息をしています。

見えないモノだから日々生活する人、一人一人の努力や工夫が不可欠です。

北見には誇れる自然や恵みがたくさんあります。この街で生活する者が責任をもって守っていく義務があるはずです。今を生きる人間が次世代の人たちに残していくためにも、みんなで考えて、できることから取り組みたい、そんな思いを込めました。

みんなで考えたい、北見で取り組む自然環境と生活のあり方



環境と共生した快適な生活を求めて、実践してまいります。

